

「自ら立つ・守る・ひらく未来」 —原発事故を教訓にわれわれが成すべきこと—

公益社団法人 日本放射線技術学会
代表理事 真田茂 先生

このテーマについて、3項目に分けて話をしました。まず、主題である(1)われわれが成すべきこと、(2)事故で学んだこと、そして(3)学会が為すべきことです。これは、“為せば成る”と言われるように、学会が為すべきことをすれば、会員が見事に成し遂げてくれると韻を踏んでいます。

「われわれが成すべきこと」は、あらためて自らを放射線・放射能に関するプロフェッショナルと自覚して確たる行動を執ることで、一つにはインディペンデントな立場で、主体的に自らの知識・技術と良心を人々に伝えることと、もう一つは、直接的に人々の健康と福祉に貢献するという公益への奉仕を実践することだと考えます。今回の事故では、医療の現場で診療放射線技術を提供するという我々に対して、時にはそれを超えて、人々を対話によって納得させて勇気づける適切な情報をどれだけ語れるか、

そのような考え方をどれほど身につけているかが、問われています。基になるデータは同じであっても、われわれ個々の人間性が、問題解決のための瑞々しい情報と活力を生み出すものと考えます。

「事故で学んだこと」は、特に安全と安心に関する議論と放射線被ばくに関する様々な議論です。技術学会は、「放射線・放射能」について市民に正しく理解いただくための公開講座を東北で何度か開催してきました。それらの質疑応答などを通じて学んだことは、科学絶対でもダメ、過剰な悲観主義でもダメ、冷静な判断をできる知恵こそが重要であるということです。科学的知識だけでは判断することが困難であり、科学技術以外の考え方や価値観を持ち込まないと最適な判断ができない領域(トランス・サイエンス:trans-science)があることを、私たちは痛感させられました。また、放

プロフェッショナルとは？

- 形態的要件
高度な職能の保有
特定のクライアントの問題解決
インディペンデントな立場
- 意味的要件
公益への奉仕
厳しい掟の遵守



波頭 亮@プロフェッショナル原典



放射線 放射能 を正しく理解するための 市民公開講座

- 「放射線・放射能による影響と対策—福島原子力発電所事故による影響の理解のために—」
日時：平成23年6月4日(土) 会場：一橋記念講堂(東京都千代田区)
- 「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」
日時：平成23年7月14日(日) 会場：コラッセふくしま
- 「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」
日時：平成24年5月12日(土) 会場：福島県立医科大学
- 「放射線に関する正しい教育を実施するための整理講座」
日時：平成24年11月23日(金) 会場：つくば国際会議場
- 「今を問う！ 私たちの暮らしと医療被ばく」
日時：平成25年2月10日(日) 会場：仙台国際センター
- 「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」
日時：平成25年5月18日(土) 会場：コラッセふくしま
- 「今を問う—私たちの暮らしと医療被ばく—」
日時：平成25年10月19日(土) 会場：アクロス福岡(第4回JSRT秋学術大会時)



放射線被ばくに関しては、線量限度を設けない医療の責任は重いということと、事故の影響を正しく解析するには医療被ばくの解析が不可欠であることです。さらに、実は放射線・放射能の個別の問題よりも事故に起因する様々な社会問題が噴出しており、われわれも病院で待つよりも地域に出るといふ姿勢が重要となっています。

「学会が為すべきこと」は、どの領域よりも先んじて公益に資するよう、われわれの知識・技術を惜しみなく提供することを最優先することです。学会は社会に育てられて

あり、社会のためにあります。日本が放射線・放射能に関わる国難にある今、東北部会は学会の奴隷であり、学会は国の奴隷となって、何をやるべきかの“超”先見の明で事にあたるべきだと考えます。

日本は、世界一医療被ばくが大きいという事実はあるものの、世界一の医療先進国であって健やかに生きるという素晴らしい価値観を世界に示すことができます。われわれはその根幹に携わる者として、責任とプライドを持って引き続き努力しましょう！

一般論として

- 人々が幸せに生きることを支援するのが応用科学、実践科学である。
- 学会は、より公益を意識しなければならない。
 - (1) 公益→世のため人のため→人が喜んでくれれば良い！
 - (2) 激動の社会と接点を持ち、組織が時代に先んじて何かを変えるためには、まず、組織の中が変わらなければならない。人もルールも！

JSRTとしては

- 放射線に関わる差別、偏見を技術・科学でなくす
- 専門家集団の知識・技術は惜しみなく提供する、どの領域よりも先んじて公益に資する
- 線量と画質のガイドライン作成
- 被ばく関連の連携
JART, J-RIME, EFRS
- 放射線医科学コンソーシアム



【付記】

2013年09月11日up

【会告】 重要なお知らせ 科学研究費補助金（科研費）の細目の見直し

代表理事 真田 茂

平成26年度科研費公募において境界医学分科の細目として「医学物理学・放射線技術学」が採択されました。

系：生物系
 分野：医歯薬学
 分科：境界医学
 細目番号：8005
 細目名：医学物理学・放射線技術学

詳細は独立行政法人日本学術振興会ホームページをご覧ください。

本学会会員からこの細目へ多くの応募をお願いいたします。

JSRT-JSMP合同セミナー「科研費採択をめざして」@JRC2014

日時：4月12日(土) 13:00-14:30

会場：416室+417室(合計141席)